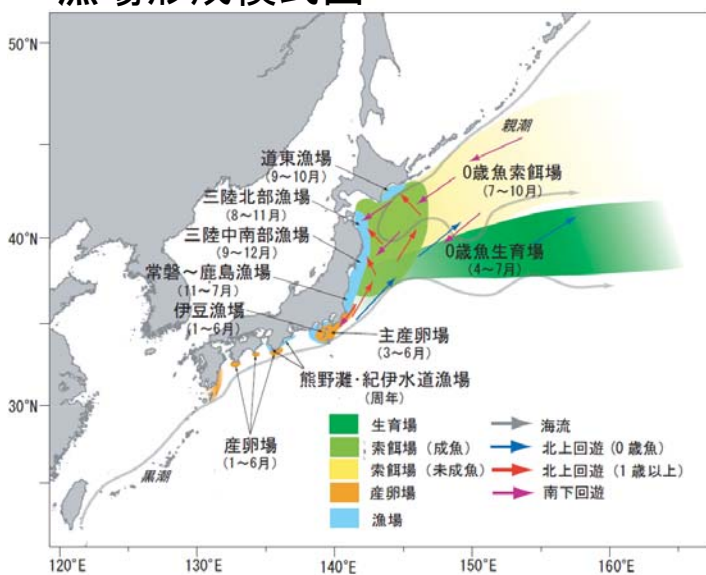




マサバ太平洋系群 平成28年度資源評価結果、直近の資源情報 (漁獲量)及び平成29年の調査結果

1

マサバ太平洋系群の生活史と 漁場形成模式図



生物学的特性

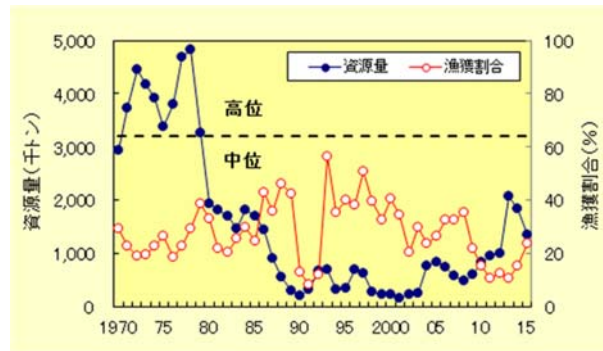
- 寿命：7~8歳(最高11歳)
- 成熟開始年齢：2歳(50%)、3歳(100%)、年により異なる
- 産卵期・産卵場：1~6月、主に伊豆諸島周辺海域(3~6月)、他に足摺岬、室戸岬周辺や紀南などの太平洋南部沿岸域や東北海域
- 索餌期・索餌場：夏~秋季、主に三陸~北海道沖
- 食性：稚魚は動物プランクトン、幼魚以降はカタクチイワシなどの魚類やオキアミ類などの甲殻類、サルバ類など
- 捕食者：サメ類などの大型魚類、ミンククジラ

2

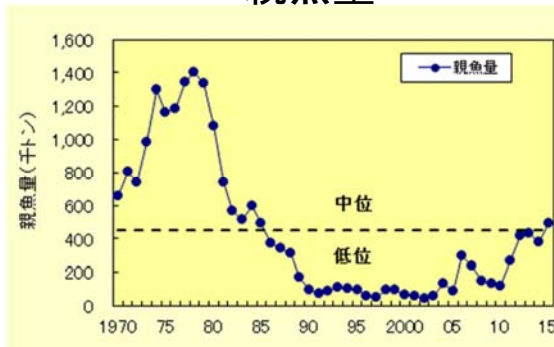
平成28年度資源評価結果

資源量と漁獲割合

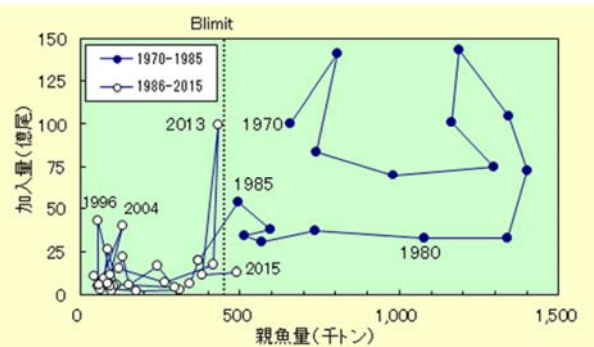
平成29年度の資源評価は、12/1の会議により検討、承認されます。



親魚量



親魚量と加入量との関係

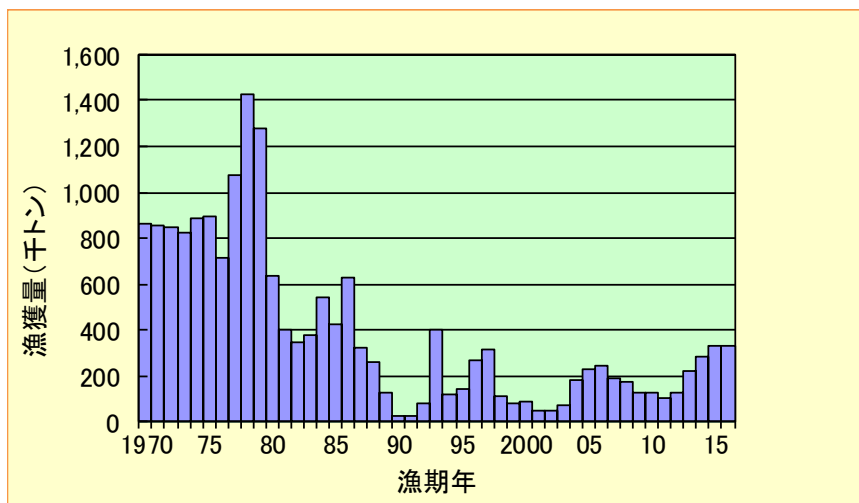


2015年 資源量:135万トン

親魚量:49万トン(Blimit=45万トン以上)

3

平成29年度資源評価途中経過報告 (漁獲量)

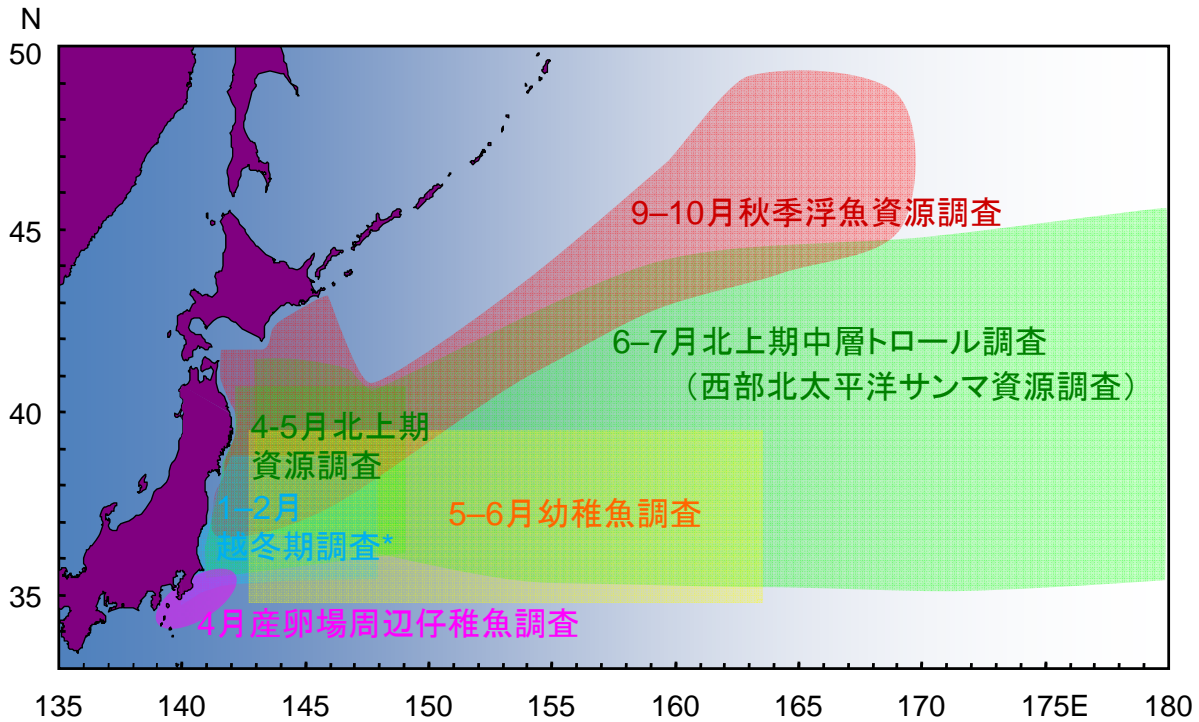


2016年 漁獲量(概数值) 328千トン

4

浮魚類の資源評価 調査船調査海域

(さば類, いわし類太平洋系群関係. 水研機構実施分)

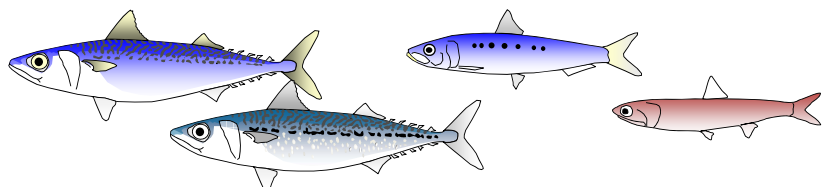


各季節ステージの分布域をカバーするように実施(*越冬期調査は2011年までで終了)

秋季浮魚資源調査の目的

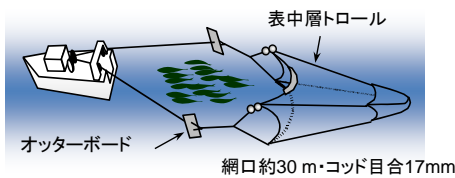
- 北西太平洋における索餌～南下期のサバ類, マイワシ, カタクチイワシの分布状況, 生物特性を把握し, 資源評価や漁況予測の資料とする
- サバ, イワシ類太平洋系群の新規加入群の主な部分は0歳時に移行域～親潮域を回遊する. 本調査結果は加入豊度の把握に有効

※前身として, 1984～2002年に流し網調査が実施された

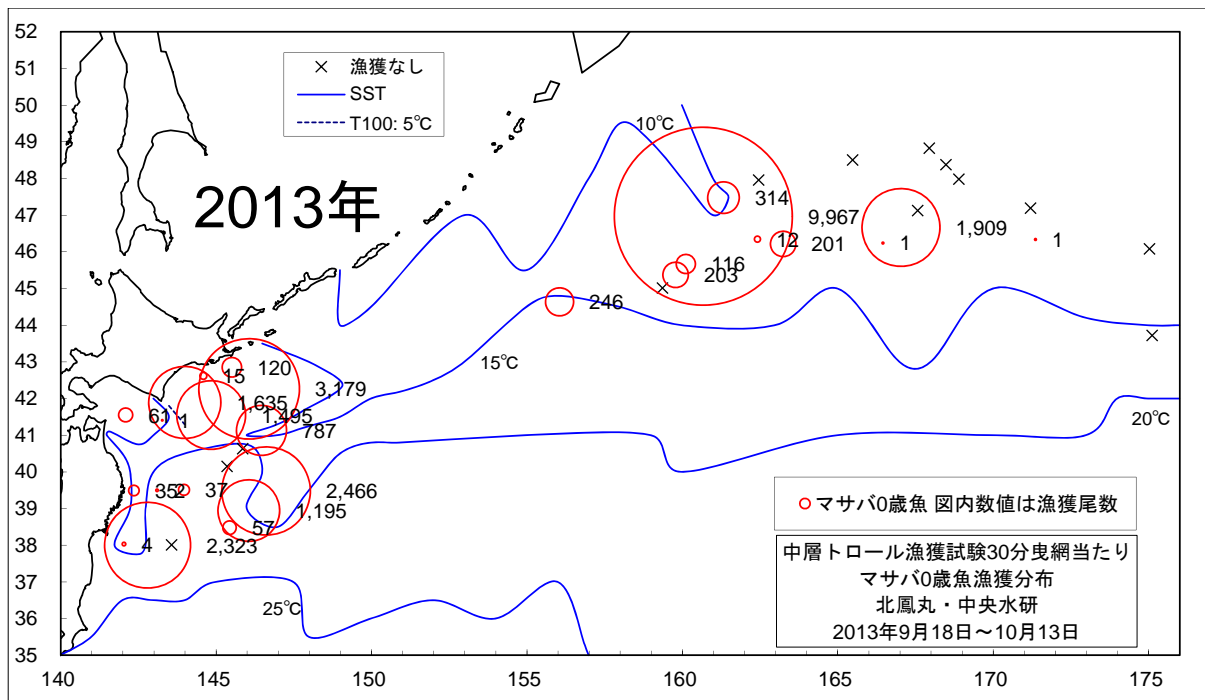


調査方法

- 北鳳丸 (664トン, 北海道実習船管理局)
- 常磐～道東沖から千島列島沖の東は170°E付近までの調査点を設定
- オッタートロールを4～5ノットで表中層を1～0.5時間曳網 (→0.5時間曳網当たり漁獲量に規準化)
- 計量魚探機エコー測定 (38 kHz)
(→千島沖マイワシ現存量推定など)

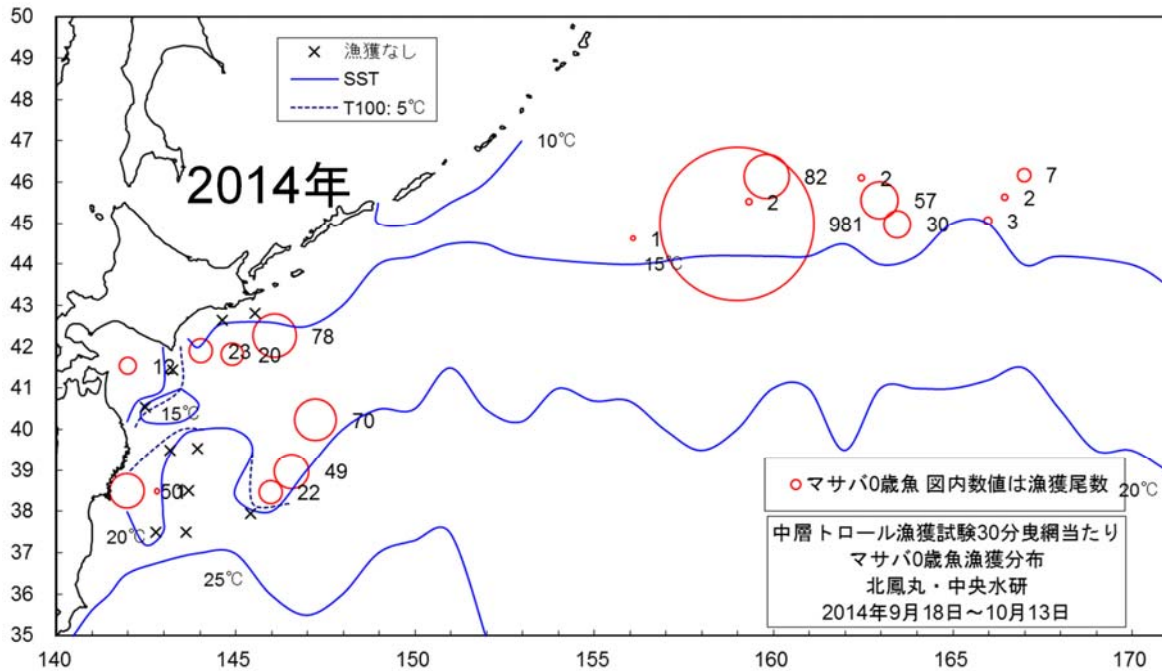


マサバ推定0歳魚の漁獲分布



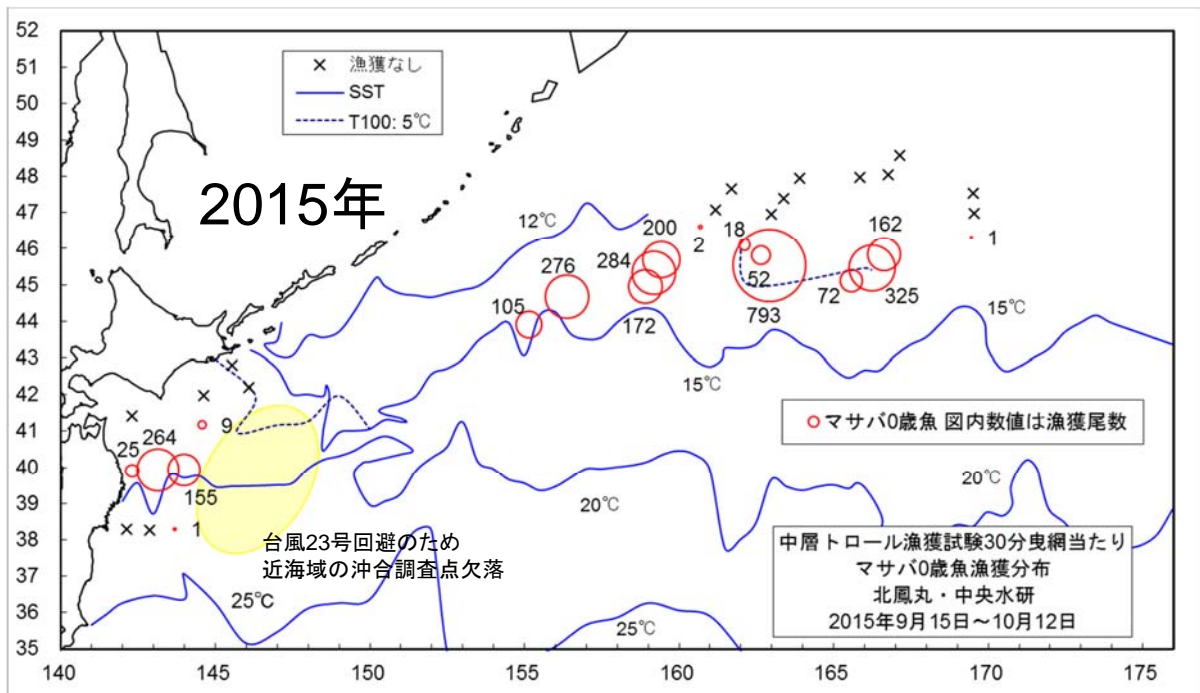
千島沖合では主にSST10～15°Cに広く分布. 近海では親潮の影響ある海域に広く分布
CPUEは高い(最大値・平均値とも過去最高). 出現率(漁獲のあった点の割合)は過去最高値

マサバ推定0歳魚の漁獲分布



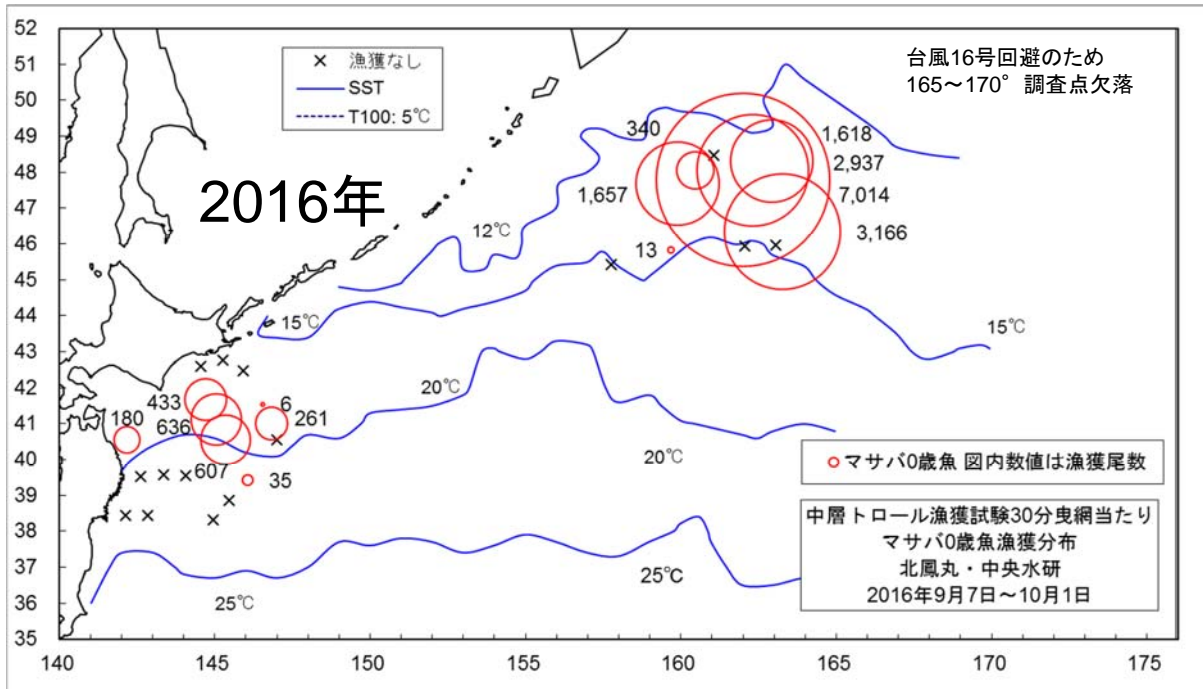
千島沖合では主にSST10~15°Cに分布. 近海においても広く分布.
出現率(漁獲のあった点の割合)は比較的高い(過去中央値を上回る)

マサバ推定0歳魚の漁獲分布



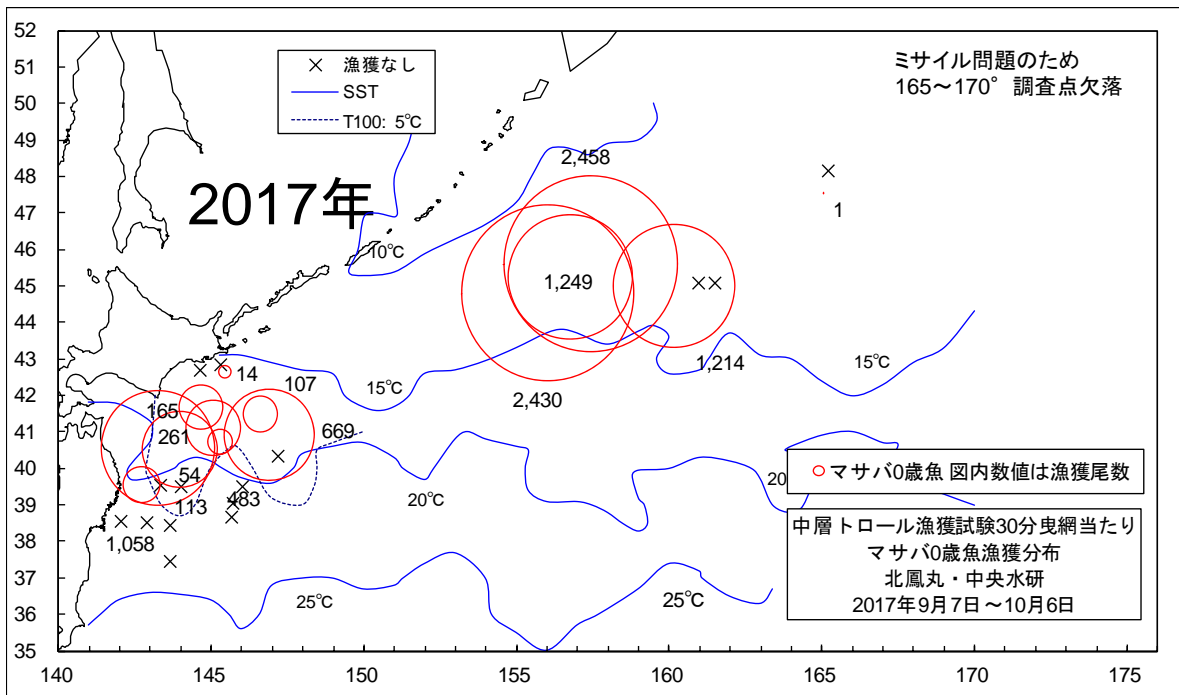
千島沖合では主にSST12~15°Cに広く分布.
近海の出現率は2014年と同程度. ただし調査点の数は2014年の半分.

マサバ推定0歳魚の漁獲分布



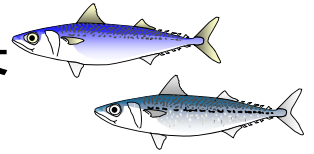
千島沖合では主にSST12~15°Cに広く分布。
 近海の出現率は2014, 2015年と同程度。千島沖の漁獲尾数は2013年並に多い。

マサバ推定0歳魚の漁獲分布

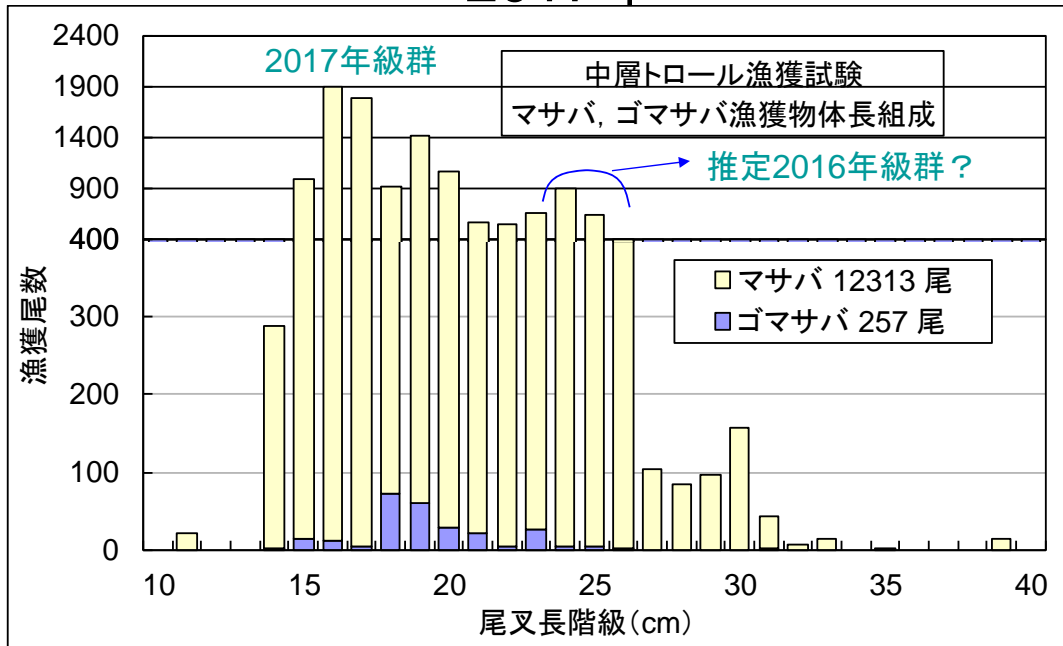


近海の出現率は2015, 2016年と同程度。千島沖の漁獲尾数は2016年より少ないが、
 道東・三陸沖では2016年よりも多い。

マサバ, ゴマサバ漁獲物体長



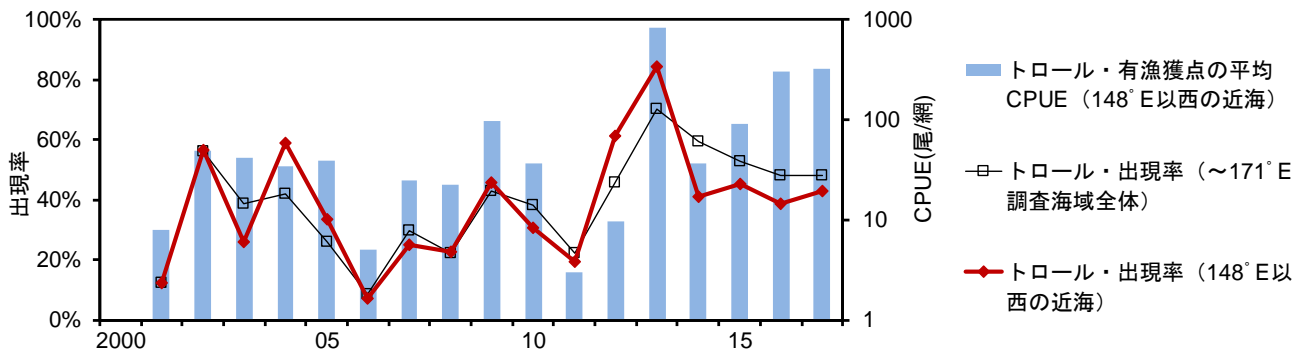
漁獲物体長組成 2017年



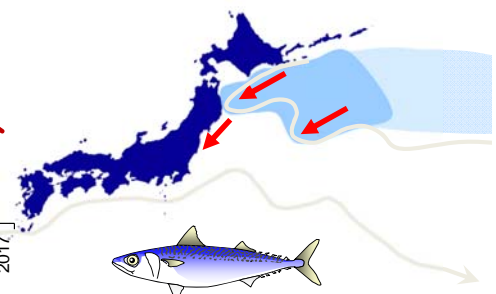
マサバ1歳魚と思われる漁獲が多かった。

マサバ 加入豊度と秋季調査指標値

中層トロール調査 (2001~2017) : 出現率・CPUE



2017年はCPUEは2013年に次いで2番目に高い値. 出現率は高くない。

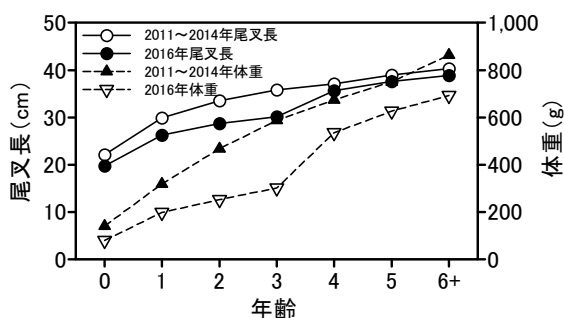


2017年の加入量指数は2016年をやや下回るものの, 比較的高い値。

近年のマサバの小型化について



2011～2014年漁期漁獲物の平均
と2016年漁期の比較



2016年漁期の3歳魚(2013年級群)の
漁獲物平均体重は約300gと、
2011～2014年漁期平均の約半分。
その他の年級群も小型化が見られる。

2013年の加入量(漁獲サイズまで生き残った0歳魚の尾数)は、
1970年代の資源高水準期に見られたような水準の高さ。
密度効果による成長の悪化は考えられるが、3歳魚で約300gは
1970年代にも見られなかったような低成長であり、密度効果だけ
では説明できない。

分布・回遊域の変化による餌、水温履歴などの変化がなかったか、
マイワシ増加による餌の競合が起きていないか、今後の研究の課題。

マサバ太平洋系群の広域資源管理

1 資源の現状（平成 28 年度資源評価より）

本系群の資源量は、昭和 50 年代前半には 300 万トン以上であったが、同後半には 200 万トン以下に、昭和 60 年代に 100 万トン以下となり、平成 13 年には 15 万トンに落ち込んだ。その後、平成 16 年の高い加入量によって資源量は 70 万トンを超え、その後も比較的高い加入量と漁獲圧の低下によって資源量は増加し、平成 25 年の極めて高い加入量によって、同年は 207 万トンとなった。その後、資源量は減少し平成 27 年は 135 万トンと推定された。

平成 27 年の親魚量は 49.0 万トンであり、本系群の安定的な再生産を確保するのに必要な水準（45 万トン）を上回っていることから、資源水準は中位、最近 5 年間（平成 23 年～平成 27 年）の親魚量の推移から動向は増加とされている。

2 関係漁業種類

- (1) 大臣管理漁業 大中型まき網漁業
- (2) 知事管理漁業等

県名	対象漁業種類
千葉県	火光利用サバ漁業（サバたもすくい） 敷網漁業（サバ棒受網） 中型まき網漁業 定置網漁業
神奈川県	（サバ釣り漁業）※1 （サバたもすくい漁業）※2 定置網漁業
静岡県	サバすくい漁業 棒受網漁業 中型まき網漁業 定置網漁業

※1 同県内では自由漁業 ※2 他都県の許可漁業

3 資源管理の方向性

近年の海洋環境が当該資源の増大に不適な状態にあると認められないことから、資源を維持若しくは増大することを基本方向として管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図る。

4 関係者による連携

行政・研究担当者会議及び漁業者協議会を通じて、資源状況や漁獲状況の把握、資源管理措置の確実な実施を図り、管理方策の改善を検討する。

マサバ太平洋系群の広域資源管理の取組状況

1 大中型まき網漁業の取組状況

(1) 資源管理計画における自主的管理措置

毎月5日以上 of 休漁を実施している。

(2) その他に取り組む資源管理措置

北部太平洋海区資源管理計画管理委員会が定めた「マサバ太平洋系群管理方策」に基づき、マサバの漁獲量が一定量を超えた場合に臨時休漁等を実施している。

(臨時休漁実績)

年度	休漁日数	休漁統日数 (a)	操業統日数(b)	削減率 (a/(a+b))
2006漁期(7-6月)	24日	755 統日	1,898統日	28%
2007漁期(7-6月)	31日	883 統日	2,289統日	28%
2008漁期(7-6月)	33日	933 統日	1,964統日	32%
2009漁期(7-6月)	31日	970 統日	1,611統日	38%
2010漁期(7-6月)	26日	843 統日	1,291統日	40%
2011漁期(7-6月)	25日	743 統日	1,474統日	34%
2012漁期(7-6月)	10日	217 統日	1,742統日	11%
2013漁期(7-6月)	22日	583 統日	2,262統日	20%
2014漁期(7-6月)	32日	791 統日	2,116統日	27%
2015漁期(7-6月)	58日	1,425 統日	2,470統日	37%
2016漁期(7-6月)	71日	1,517 統日	2,315統日	40%

また、平成 26 年度より、「マサバ太平洋系群管理方策」の一部として、「北部太平洋まき網漁業におけるサバ類の試験的 I Q 管理実施計画」を定め、I Q 方式を用いた試験的な資源管理に基づき、マサバの漁獲量が一定量を超えた場合に臨時休漁等を実施することとしている（資料 1-2-3）。

2 各県関係漁業（中型まき網漁業、サバたもすくい網漁業等）の自主的管理措置とその取組状況

対象漁業種類	都県名	管理措置	内 容 等
火光利用サバ漁業 （サバたもすくい） 及び敷網漁業（サバ 棒受網）	千 葉	休漁	毎週金曜日
サバ釣り漁業	神奈川 <small>（みうら漁協）</small>	休漁日の設定	6～8月 毎週土 9～5月 毎週土及び毎月 第2・第4火曜
	<small>（横浜市漁協）</small>	操業時間規制	5～9月 投錨5時30分、 操業終了15時 10～4月 投錨6時、 操業終了15時
		休漁日の設定	毎週火・土（年末年始を除く）
		操業時間規制	4～9月 5時から16時 （出港時から帰港時） 10～3月 5時30分から16 時 （出港時から帰港時）
サバたもすくい	神奈川	休漁日の設定	毎週金曜日
サバスくい網漁業及 び棒受網漁業	静 岡	操業日数制限	1ヶ月間の操業日数20日間 以内
中型まき網漁業	静 岡 <small>（根拠地：伊豆東岸）</small>	休漁	連続した14日間の係船休 漁（6月、11月～翌年5月） 及び月3日の定期休漁
	<small>（根拠地：駿河湾内）</small>		月4日の定期休漁

平成 29 年 11 月

試験的なサバ類個別漁獲割当（IQ）の実施について （北部太平洋海区大中型まき網）

1 平成 28 年度の実施概要

- （1）北部太平洋海区（北海道東海域を除く）で操業する大中型まき網漁船（1 そうまき）の全船を対象に、10 月～翌年 9 月の一年間、試験的な IQ 管理を実施。
- （2）全般的な傾向は以下のとおり（詳細は分析中）。
 - ① 約 30 年ぶりの大発生群である平成 25 年級群の小型魚（250g～300g 程度）が漁場を占める状況は平成 25 年度、26 年度と同様。
 - ② このような漁場の豊度は高い中で、TAC は遵守。

2 平成 29 年度の実施予定

- （1）北部太平洋海区（北海道東海域を除く）で操業する大中型まき網漁船（1 そうまき）の全船を対象に、本年 10 月～翌年 6 月の 9 ヶ月間、試験的な IQ 管理を実施。
- （2）IQ 管理期間の前半（10 月～12 月）及び後半後期（4～6 月）は月別に IQ 枠を設定し、後半（1 月～3 月）は一括の IQ 枠を設定。
- （3）IQ 試験管理の実施に当たっては、北部太平洋まき網漁連が IQ 枠の配分、遵守措置等を定めた IQ 管理実施計画を作成し、水産庁がこれを確認。

※試験的 IQ 管理期間においては、水産庁としても VMS による対象船の航跡把握、水揚げ検査の実施を通じ、IQ 管理を支援。

※漁業操業、水揚げ等に係るデータを収集し、研究機関で、IQ 管理の効果・課題等について検証。

3 その他

操業データ分析の結果、この漁業において実効性のある努力量管理（臨時休漁、投網制限）が 2004 年から行われてきたこと、これらの努力量管理により、年間の総漁獲量が 3 割程度抑制されていたことが証明。